

# ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした看護教育の歴史

佐々木秀美

広島文化学園大学看護学部・看護学研究科

## はじめに

本報告は、本学が教育交流を目的として学術的提携をしているドイツカトリック大学が2019年度に実施した国際カトリック大学学会と六史学会で発表した内容に修正を加えた内容を学内で開催された看護学統合研究センター研究会で報告した内容である。六史学会とは日本薬史学会、日本医史学会、日本獣医史学会、日本歯科医史学会、洋学史学会、日本看護歴史学会の六の学術団体で構成されている。

歴史研究の意義は社会学者デュルケム (Emile Durkheim 1858-1917) が述べたように我々は過去から受け継いだ遺産でしか未来を建設し得ない (教育と社会学 p109) という同一見解を有するからである【スライド 1】。

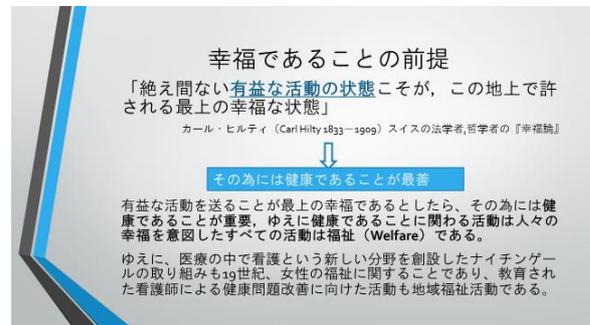
カール・ヒルティ (Carl Hilty 1833-1909) は、絶え間ない有益な活動の状態こそが、この地上で許される最上の幸福な状態と述べた (ヒルティ, 2014)。つまり、福祉の意味が幸福という意味であるとしたら、幸福の意味が日常生活をよりよく生きること、よく生きる為には健康であることを意味する。ゆえに幸福であるという事は健康であることとすることができる。つまり、看護師が実践する健康問題改善に向けた活動も福祉活動である【スライド 2】。

日本では社会福祉という考えは、人間の生存に関わる生活上の問題であり、単に生存の危機ということだけであれば、人間の歴史上古い問題である。社会の生産力が極度に低ければ、自然利用の能力も低く、災害・飢饉・伝染病 (結核の蔓延と死亡率の高さ) などに対しても、平和時においても生命の危機があるという事は、社会的に観察できる現象である。仏教国であった日本の福祉活動は慈善的要素が高く、比較的古いのが、その福祉対策にキリスト教主義者

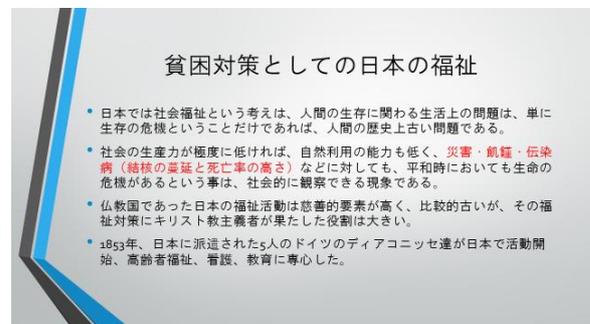
が果たした役割は大きい。1853年、日本に派遣された5人のドイツのディアコニッセ達が生徒で活動開始、高齢者福祉、看護、教育に専心した【スライド 3】。



【スライド 1】



【スライド 2】



【スライド 3】

著作『カイゼルスウェルト学園によせて』は、1851年に執筆されたナイチンゲールのカイゼルスウェルト(Kaiserswerth)学園におけるディアコニッセ(Deaconess)養成の見聞録である。著作の冒頭の“19世紀は女性の世紀”という言葉、それは一般にジョン・スチュワート・ミルの言葉として有名である【スライド 4】。

ディアコニッセとは女性の助祭もしくは執事をさす。ギリシャ語で Dia on は女性を意味する。Diakonos という言葉は新約聖書に出てくる言葉であり、家事の雑役に使える者をさした。これをディアコニッセとしたのは、その養成を開始したドイツのテオドール・フリードナー牧師である。ドイツにおけるフリードナー牧師(Pastor Theodor Fliedner 1800－1864)のディアコニッセ(Deaconess)養成は、女性の聖務として、あるいは個人・慈善団体としての地域福祉への貢献であり、彼によって訓練されたディアコニッセ達は同学園の“母の家”を拠点として求められる場所へ出向、社会貢献した【スライド 5】。

フリードナー牧師はカイゼルスウェルトに赴任した際に、人々が経済的に苦境に陥っていたため、救済資金を求めてイギリスに足を伸ばした。そこでエリザベス・フライ女史の女囚保護事業活動を知ってドイツに広めようとした。その一環として 1836年に看護師の養成所も含めたカイゼルスウェルト学園を創立した。フリードナー牧師はディアコニッセを保護し、その専門性を強調するために、彼女たちに立派な制服を与えた。この制服を着ている者は、共同体に属していることを示し、母の家に属さない者たちと外面的にも区別された。ディアコニッセの日常を構造化し、規制し、特に精神的生活を支援し、共同体の基盤となった【スライド 6】。

1860年に看護教育を開始したフローレンス・ナイチンゲール(Florence Nightingale, 1820－1910)は、1850年と1851年の2回に渡ってカイゼルスウェルト学園で短期教育を受けた。ナイチンゲール滞在時の宿泊施設は高齢者施設として維持・運営されている【スライド 7】。

### なぜ、ディアコニッセ研究なのか

- ナイチンゲールの著作『カイゼルスウェルト学園によせて』<sup>1)</sup>は、1851年に執筆されたナイチンゲールのカイゼルスウェルト(Kaiserswerth)学園における見聞録である。著作の冒頭の“19世紀は女性の世紀”という言葉、それは一般にジョン・スチュワート・ミル<sup>2)</sup>の言葉として有名

1) Florence Nightingale (1851) : The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev. (添訳ます他訳：ナイチンゲール著作集第一巻、カイゼルスウェルト学園によせて、現代社、1969年。)

2) ジョン・スチュワート・ミル (John Stuart Mill 1806-1873) イギリスの哲学者、経済学者。ジェームズ・ミル (James Mill 1773-1836 イギリスの哲学者、歴史家、経済学者、ベンサム(の息子)の息子、ベンサム(34)参照) の助言に基づき父ジェームズによって早期教育を受ける。『経済学原論』や『自由論』を書いて、私有財産制や経済的自由を擁護しつつもその限界を認め、また自由を経済的自由からよりも精神的自由から根拠付けて、自由主義に新しい展開を与えた。

【スライド 4】

### ディアコニッセ (Deaconess) とは何か

- ディアコニッセとは女性の助祭もしくは執事をさす。ギリシャ語で Dia on は女性を意味する。Diakonos という言葉は新約聖書に出てくる言葉であり、家事の雑役に使える者をさした。これをディアコニッセとしたのは、その養成を開始したドイツのテオドール・フリードナー牧師である。
- フリードナー牧師はディアコニッセを保護し、その専門性を強調するために、彼女たちに立派な制服を与えた。この制服を着ている者は、共同体に属していることを示し、母の家に属さない者たちと外面的にも区別された。ディアコニッセの日常を構造化し、規制し、特に精神的生活を支援し、共同体の基盤となった。

【スライド 5】

### カイゼルスウェルト (Kaiserswerth) 学園におけるディアコニッセ養成のはじまり

ドイツのフリードナー牧師はカイゼルスウェルトに赴任した際に、人々が経済的に苦境に陥っていたため、救済資金を求めてイギリスに足を伸ばした。そこでエリザベス・フライ女史の女囚保護事業活動を知ってドイツに広めようとした。その一環として1836年に看護師の養成所も含めたカイゼルスウェルト学園を創立した。



Pastor Theodor Fliedner (1800-1864)

【スライド 6】

### ナイチンゲール滞在時の宿泊施設



【スライド 7】

ナイチンゲールが訪問した時にはカイゼルスベルト学園内に以下の4つの施設があった。

- 1.病院とディアコニッセの母の家
- 2.刑期を終えた女性のための更生所と教護院
- 3.「教区」とディアコニッセ
- 4.師範学校、孤児院そして幼児学校【スライド 8】

そして、ディアコニッセ養成と看護教育は、共に日本に導入された。同学園での教育体験は、女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠となり、看護教育に向けた取り組みの原点になったと考えられた。

そこで、本報告では、日本に導入されたドイツでのディアコニッセ養成と看護教育の歴史を検証、地域福祉の側面から若干の検討を加えたものである。

## I ドイツにおけるディアコニッセ養成に影響を受けたナイチンゲール

プロテスタントの牧師であったテオドル・フリードナーによって1833年に設立されたカイゼルスヴェルト学園はディアコニッセの母の家【スライド9】、病院、更生所と教護院、師範学校、孤児院・幼児学校を付設していた。

現在、カイゼルスヴェルト学園におけるディアコニッセの母の家はカイゼルスヴェルトホテルとして旅行者を受け入れ、病院はナイチンゲールメモリアルホスピタルという名称で、救命救急病院として拡大され、地域住民の施療に担っている。刑期を終えた女性達の為の更生所と教護院が残されている【スライド10】。

学園の機能はほとんど、プロテスタントの女性の聖務としての教区ディアコニッセ(Deaconess)の養成である。その養成は女性たちを看護師や教育者として教えられるようにすることであった。養成されたディアコニッセは同学園の“母の家”を拠点として求められる場所へ出向、社会貢献した。

カイゼルスヴェルト学園は古い施設を残しながら今なお活動をしているが教育者や看護師等の養成は他の専門の教育機関で養成された後、採用している。写真は85歳になったディアコニッセのアネリー

### ナイチンゲールが観たカイゼルスヴェルト学園

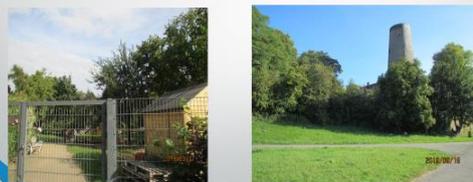
- 1.病院とディアコニッセの母の家
- 2.刑期を終えた女性のための更生所と教護院
- 3.「教区」とディアコニッセ
- 4.師範学校、孤児院そして幼児学校

【スライド 8】



【スライド 9】

### 刑期を終えた女性のための更生所と教護院



【スライド 10】

### ドイツディアコニッセ養成の現在



【スライド 11】

ゼさんと佐々木、彼女は現在車いす生活であるが84歳まで活動していた【スライド 11】。

アネリーゼを中心に当時の理事長の写真を掲載しているカイゼルスヴェルト学園のリーフレットには以下のミッションが書かれている

「we experience that our common spiritual life gives us strength and guidance .Meeting and sharing are as important for us as being silent. Our devotions (in the morning and in the evening) help to interrupt everyday life and turn us to God. We respect different ways of worshipping; We nurture our traditions like our monthly prayer worship and try our new forms of spirituality. Bible study and days of retreat nurture our community.

「私たちは、日々の精神的生活が私たちに力と導きを与えていること実感します。語り合いと分かち合いは私たちにとって静寂が必要であるのと同じくらい重要です。私たちの祈り(朝と夕)は、私たちの日常生活から神への方向に向けるのに役立ちます。私たちは毎月の伝統的な礼拝を育み、礼拝のさまざまな方法を尊重しつつ新しい形の精神性を育みます。聖書研究と隠遁の日々は私たちの共同体を育てます。」【スライド 12】

同時に、リーフレットには、彼女たちが福音的な姉妹であり、有給や無給の奉仕女として実践し、社会的事業をしていることが記載されている。ディアコニッセ達は、一定の修養が済んで誓願が認められれば右下のような記章が頂ける。その生涯をディアコニッセとして生きたアネリーゼ(Anneliese Stob 図1中央 図2)はその記章をペンダントとして胸につけていた【スライド 11】。

カイゼルスヴェルト学園で短期教育を受けたナイチンゲールは、どのような種類の不足に対しても、神が満たし給う恩恵をいつでも見つけることができる。また、彼女らが教会の“召使い”として奉仕に携わっていたのを見る時、女性にも神に与えられた役割があると述べた。カイゼルスヴェルト学園での教育を受けたナイチンゲールは、自身が有する

カイゼルスヴェルト学園のミッション

- 「we experience that our common spiritual life gives us strength and guidance .Meeting and sharing are as important for us as being silent. Our devotions (in the morning and in the evening) help to interrupt everyday life and turn us to God. We respect different ways of worshipping; We nurture our traditions like our monthly prayer worship and try our new forms of spirituality. Bible study and days of retreat nurture our community.
- 私たちは、日々の精神的生活が私たちに力と導きを与えていること実感します。語り合いと分かち合いは私たちにとって静寂が必要であるのと同じくらい重要です。私たちの祈り(朝と夕)は、私たちの日常生活から神への方向に向けるのに役立っています。私たちは毎月の伝統的な礼拝を育み、礼拝のさまざまな方法を尊重しつつ新しい形の精神性を育みます。聖書研究と静寂の日々は私たちの共同体を育てます。」

【スライド 12】

ディアコニッセ養成がナイチンゲールに与えた影響

カイゼルスヴェルト学園で学んだF・ナイチンゲール(1820-1910)は、「どのような種類の不足に対しても、神が満たし給う恩恵をいつでも見つけることができる」また、「彼女らが教会の“召使い”として奉仕に携わっていたのを見る時、女性にも神に与えられた役割がある」と述べた。



【スライド 13】

女性が一人の人格として尊重される

人格とは自立的意志を有し、自己決定的である個人であり、それは職業も含まれる。女性を専門職業に向けて教育する事、それは単に女性にその職業的訓練を施す事のみではない。

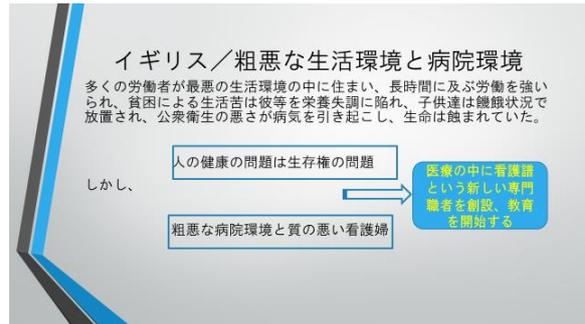
「19世紀は女性の世紀」  
Florence Nightingale (1851) 『The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses』  
優れた女性は「その知性 (intellect)、倫理 (moral activity)、実践 (practice) において最上のもを患者に借しなく与える」  
Florence Nightingale (1888) 『To the nurses and probationers trained under the "Nightingale Fund"』

【スライド 14】

女性に対する高邁な感情、すなわち、女性が社会で有用であることの正当性を保証する大きな根拠になり、後の看護教育思想の原点になったと考えられた【スライド 13】。

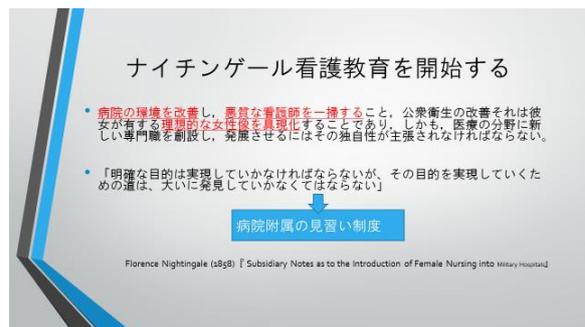
人格とは自立的意志を有し、自己決定的である個人であり、それは職業も含まれる。女性を専門職業に向けて教育する事、それは単に女性にその職業的訓練を施す事のみではない【スライド 14】。

イギリスでは粗悪な生活環境と病院環境があった。多くの労働者が最悪の生活環境の中に住まい、長時間に及ぶ労働を強いられ、貧困による生活苦は彼等を栄養失調に陥れ、子供達は餓餓状態で放置され、公衆衛生の悪さが病気を引き起こし、生命は蝕まれていた。人の健康の問題は生存権の問題であるが、しかし、粗悪な病院環境と質の悪い看護婦が人々の健康的な生活をむしばんでいた【スライド 15】。



【スライド 15】

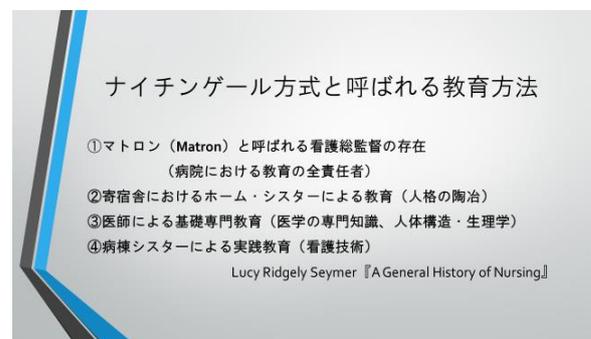
ナイチンゲールは、病院の環境を改善し、悪質な看護師を一掃すること、公衆衛生の改善それは彼女が有する理想的な女性像を具現化することであり、しかも、医療の分野に新しい専門職を創設し、発展させるにはその独自性が主張されなければならない。



【スライド 16】

「明確な目的は実現していかなければならないが、その目的を実現していくための道は、大いに発見していかななくてはならない」

女性の専門職を創設し、創設された専門職者が、病院看護の質の向上、国民や兵士の体力向上に貢献でき、さらに公衆衛生の普及向上にも貢献できるという明快な目的を導き出した。その目的達成にはより専門性の高い教育を女性達に準備する必要があった。そこで、ナイチンゲールは、看護師の養成機関を病院附属にし、“見習い制度”を基本とした看護教育を創始した【スライド 16】。



【スライド 17】。

見習い制度による教育が効果的に作用するには、まず良質の環境が準備される必要があった。人的にも良い教育環境の中で見習い生達が経験し、感化され、更に激しく訓練される必要があった。ナイチンゲールは見習い制度の教育作用を十分に認識し、意図的に教育計画をしたナイチンゲール方式と呼ばれたその教育の特徴は ①マトロン (Matron) と呼ばれる看護総監督の存在、②寄宿舎におけるホーム・シスターによる教育、③医師による基礎専門教育、④病棟シスターによる実践教育 (小玉香津子, 1978) である【スライド 17】。

ナイチンゲール方式と呼ばれる看護の教育システムは明治維新以降、日本に導入され、現在に至っている。

フリードナー牧師とナイチンゲールはともに、女性問題に対する取り組みで、女性を尊重するという、女性の能力を無駄にしないということ、女性を地域社会に貢献させるという取り組みでは一致したが、教育方法とそのシステム的な施策では大きな違いがあった。ナイチンゲールは、当時、主流の科学論を参考にし

つつ、看護の専門職者として女性を育成することによって、女性の経済的・精神的自立・社会的自立を推進することであった。

## II 日本におけるディアコニッセ養成の歴史

そして、ナイチンゲールが推進した看護教育は、ナイチンゲール方式と呼ばれ、明治時代に日本に導入され、病院看護の質的向上に貢献し、人々の健康問題改善・維持・向上に多大な貢献をした。ゆえに、ドイツにおけるフリードナー牧師のディアコニッセ養成は、“母の家”方式と呼ばれ、女性の慈善活動における社会的役割の位置づけと有用性を起点とする看護教育に発展し、医療福祉ニーズのコミュニテイケアや必要専門職の教育の基盤、女性の社会的役割拡大への貢献など“看護・福祉・教育”の協働による地域福祉の礎を築いたと言っても過言でない。

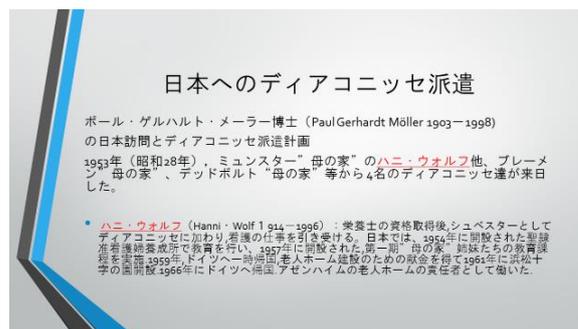
そして、戦後、ドイツから訪れたポール・ゲルハルト・メーラー博士(Paul Gerhardt Möller 1903-1998)によって、ディアコニッセの日本派遣計画がなされ、1953年、5名のディアコニッセ達が来日した。1957年、浜松聖隷ディアコニー学校が設置され、ディア

コニッセ養成が開始された。日本に派遣されたディアコニッセ達は、その教育と高齢者福祉施設の設立に貢献した【スライド 18】。

派遣された5人の一人、ハニ・ウオルフ(Hanni・Wolf 1914-1996):栄養士の資格取得後、シュベスターとしてディアコニッセに加わり、看護の仕事を引き受ける。日本では、1954年に開設された聖隷看護婦養成所で教育を行い、1957年に開設された、第一期”母の家”姉妹たちの教育課程を実施。1959年、ドイツへ一時帰国、老人ホーム建設のための献金を得て1961年に浜松十字の園開設。1966年にドイツへ帰国、アゼンハイムの老人ホームの責任者として働いた。【スライド 19】

ウオルフは自身の名前が日本語訳すると狼になるとのことで羽仁(ハニ)と日本語名でサインしていた。

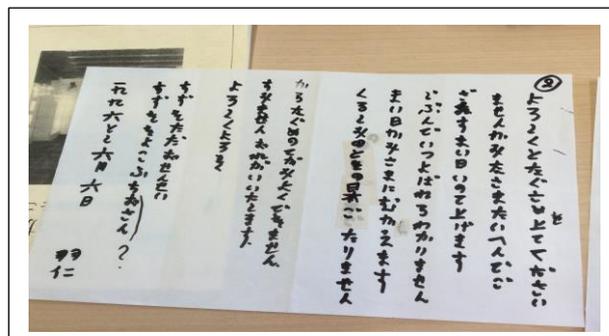
ドイツミュンスター母の家には羽仁のサイン入りの手紙が保存されていた【スライド 20】。



【スライド 18】



【スライド 19】



【スライド 20】

日本では、戦後日本国憲法が制定され、憲法第25条:1)「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」

(2)「国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と規定され、

人々の健康と生存権、そして、それらを守る

ための国の義務として社会保障制度が整備された。

浜松聖隷ディアコニー学校の教育課程は 4 年課程であり、学者選抜（原則 4 月入学）：教会牧師の推薦と本人の面接である。

1 年間：“母の家”で聖書、ディアコニッセとしての精神を学び、家事家政 一般の原理学習と実習を行う。

2 年目：聖隷准看護婦養成所を受験、合格後、准看護婦養成所生徒として入学する。

3 年目：養成所の二学年として在学し、生活を“母の家”におく以外は、すべて養成所の課程を履修する。同卒業後、県の検定試験受験し准看護婦の免許証を取得する。

4 年目：准看護婦養成所の生徒は、1 年間の聖隷病院勤務での就労が義務づけられ、それ以外の生徒は 6 か月を病院に、残りの 6 か月を、“母の家”の指示する分野での奉仕活動の実習を行う【スライド 21】。

ドイツから送られてきた奉仕女の言葉は日本語に翻訳され、彼女たちの支えになった

「私は何をしましょう。

わたくしは仕えたいのです。

私は誰に仕えようとするのでしょうか。

主に悲しむ人と貧しい人に仕えて、

さらば、私の報酬は何ですか、

私は報酬のために、感謝を受けるために仕えません。

感謝と愛から仕えるのです。

ではもしそれで死んでしまったら、

死ぬべき時には死にます。

主を知らないエステルでさえ言いました。

私は、主のために喜んで死にたい、けれども主は私を死なしめません。

かくて年老いた時には、私の心は棕櫚の緑のように若やぐでしょう。

そして主は、恵と憐みをもって飽かしめ給うでしょう。わたくしは安らかにいきます。私には何の願いもありません『ディアコニア

浜松聖隷ディアコニー学校の教育課程

- ディアコニー学校は4年課程
- 入学者選抜（原則4月入学）：教会牧師の推薦と本人の面接
- 1年間：“母の家”で聖書、ディアコニッセとしての精神を学び、家事家政一般の原理学習と実習を行う。
- 2年目：聖隷准看護婦養成所を受験、合格後、准看護婦養成所生徒として入学する。
- 3年目：養成所の二学年として在学し、生活を“母の家”におく以外は、すべて養成所の課程を履修する。同卒業後、県の検定試験受験し准看護婦の免許証を取得する。
- 4年目：准看護婦養成所の生徒は、1年間の聖隷病院勤務での就労が義務づけられ、それ以外の生徒は6か月を病院に、残りの6か月を、“母の家”の指示する分野での奉仕活動の実習を行う。

1952年（昭和27年）：准看護婦制度設置と同時に聖隷准看護婦養成所を開設していた

【スライド 21】

奉仕女の言葉

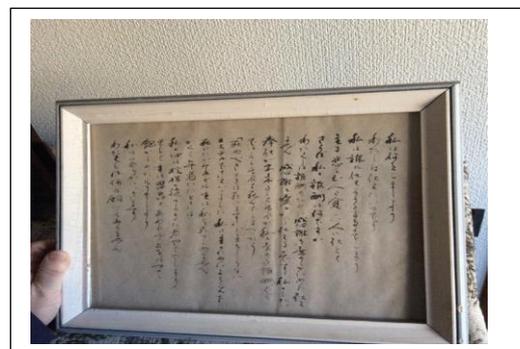
旧約聖書にある歴史物語『エステル記』の主人公のユダヤ人女性。後に、ペルシア王クセルクセス1世（在位紀元前485-465）の妃になった女性のことであろうと言われている。

- 「私は何をしましょう。
- わたくしは仕えたいのです。
- 私は誰に仕えようとするのでしょうか。
- 主に悲しむ人と貧しい人に仕えて、
- さらば、私の報酬は何ですか、
- 私は報酬のために、感謝を受けるために仕えません。
- 感謝と愛から仕えるのです。
- ではもしそれで死んでしまったら、
- 死ぬべき時には死にます。

- 主を知らないエステルでさえ言いました。
- 私は、主のために喜んで死にたい、けれども主は私を死なしめません。
- かくて年老いた時には、私の心は棕櫚の緑のように若やぐでしょう。
- そして主は、恵と憐みをもって飽かしめ給うでしょう。わたくしは安らかにいきます。私には何の願いもありません。

『ディアコニアNO.2』より

【スライド 22】



【スライド 23】

NO. 2』より【スライド 22.23】

詞中にあるエステルとは、旧約聖書にある歴史物語『エステル記』の主人公のユダヤ人女性。後に、ペルシア王クセルクセス 1 世（在位紀元前 485－465）の妃になった女性のことであろうと言われている。

『浜松ディアコニッセ年報』には“ディアコニッセのことば”が掲載されている。翻訳は西村牧師であり、平易である。“レーへの言葉”にある棕櫚（シュロ）というのはキリスト教圏

で聖書に多く記述されるヤシ科植物のナツメヤシのことを指し、西洋絵画において、棕櫚（実際はナツメヤシなど）は勝利および殉教を象徴する図像として描かれる。従来、戦争に勝利した軍隊が凱旋行進の際に持ち歩く姿が描かれたが、初期キリスト教会はこれを死に対する信仰の勝利と読み替え、殉教者を意味する言葉として定着した。

また、文中に登場するエステル（Ester）は、旧約聖書にある歴史物語『エステル記』の主人公のユダヤ人女性のことである。ペルシア王クセルクセス 1 世（在位紀元前 485-465）の時代、高官であるハマムという人物がユダヤ人であるモデルカイを陥れ、ユダヤ人全ての殺害を決めたことから、モデルカイの養女であったエステルは決死の覚悟でその計画を王に打ち明け、ユダヤ人を助けたという事である。エステルは後にクセルクセス 1 世の妃となったという伝説がある。紀元前に実在したとされる伝説の女性エステルは、イエス・キリストのことを知る由もないが、彼女の死をも恐れない覚悟が人々の命を救ったという事では、ディアコニッセ精神の鏡たりえたる人物であったという事であろう。浜松聖隷十字の園におけるディアコニッセ養成は現在、なされていないが、養成の痕跡を残している室内に【掃除の心得】が掲げられていた。それは部屋の清潔ではなく、心を研くこと、謙虚になることなどディアコニッセに求められる精神訓練の 5 箇条である【スライド 24】。

戦後、日本に導入されたディアコニッセ母の家は、長谷川保氏（1903-1994 日本の福祉事業家・教育者・政治家）によって導入された。浜松ディアコニッセ母の家と深瀬文雄氏（1909-2000 日本キリスト教団牧師）により導入（2名のドイツ人ディアコニッセと共に）によって導入されたペテスタ奉仕女母の家がある。

ペテスタ奉仕女母の家設立は、1956 年（昭和 31 年）の売春防止法成立に伴っていくあて

のない婦人たちを 1958 年（昭和 33 年）設立のいずみ寮設立（東京都主幹）と 1965 年（昭和 40 年）設立の「かにた婦人の村」設立（厚生労働省管轄）に保護した。

神戸の聖ペテロについては未調査である【スライド 25】。

ドイツのディアコニッセ養成を導入した浜松聖隷は現在、日本の高齢者特別養護老人ホーム（社会福祉法人）のモデルとなり、結核療養所として設立された病院は結核病棟のみなら



【スライド 24】

日本の3つのディアコニッセ母の家の概要とその後

1. 浜松ディアコニッセ母の家	2. ペテスタ奉仕女母の家
長谷川保氏（1903-1994 日本の福祉事業家・教育者・政治家）によって導入 ・1953年（昭和28年）：ドイツより5人のディアコニッセが来日 ・1956年（昭和31年）：カイゼルスベルト母の家の連合組織の一員となる ・1959年（昭和34年）：十字の園老人ホームの誕生（特別養護老人ホームのモデル）	深瀬文雄氏（1909-2000 日本キリスト教団牧師）により導入（2名のドイツ人ディアコニッセと共に） ・1954年（昭和29年）：ペテスタ奉仕女母の家設立 ・1956年（昭和31年）：売春防止法成立 ・1958年（昭和33年）：いずみ寮設立（東京都主幹）

3. 母の家ペテル：未調査 1965年（昭和40年）：「かにた婦人の村」設立（厚生労働省管轄）

【スライド 25】

↓

ドイツのディアコニッセ養成を導入した浜松聖隷は現在

日本の高齢者特別養護老人ホーム（社会福祉法人）のモデル病院は結核病棟のみならず一般病棟も含めた総合病院（医療法人）小・中等教育を併設、看護系高等教育機関（学校法人）

3つの法人が独立し福祉・医療・教育協働によって地域社会に貢献する機関として発展

【スライド 26】

ざ一般病棟も含めた総合病院（医療法人）に、

小・中等教育を併設、看護系高等教育機関（学校法人）となって3つの法人が独立し福祉・医療・教育協働によって地域社会に貢献する機関として発展している【スライド26】。

### おわりに

ドイツで実施されたディアコニッセ養成とその影響を受けたと考えられた看護教育について論じた。看護教育とディアコニッセ養成は、時代の要請によって異なった時期に日本に導入され、一方は看護専門職として、より、科学的（EBN）を求めつつ病院看護の質的向上と人々の健康の問題改善・維持・向上に努めている。

他方は、キリスト教的立場から、より精神性（スピリチュアルティ）を強化しながら、弱者救済をめざした人々の地域福祉活動を推進している。両者ともに人々が、身体的・精神的社会的に安寧な日常生活が送れるよう支援するという意味で人権思想（生存権）に基づいた全ての人の幸福実現に向けた地域福祉活動である。医療・福祉・教育が協働すれば自助・相互扶助・公助の推進につながり、地域福祉への貢献ができる。看護教育歴史概要から私たちが学ぶ精神性は、真実の目を持ち、正しい現状認識から、良心に基いた正しい解決策を導き、これを正しく実行するべきことである【スライド27】。

### そして、変革と成長

これが看護界と看護学に求められる将来ビジョンではなからうか！【スライド28】

鷹の象徴は変革と成長、これからも鷹に象徴される変革と成長を遂げることのできる看護界でありたい【スライド29】。

【スライド30】はナイチンゲールのお墓です。佐々木が彼女の墓に詣でた時に写真を撮りました。ご清聴ありがとうございます。

おわりに

- ドイツで実施されたディアコニッセ養成とその影響を受けたと考えられた看護教育について論じた。
- 看護教育とディアコニッセ養成は、時代の要請によって異なった時期に日本に導入され、一方は看護専門職として、より、科学的（EBN）を求めつつ病院看護の質的向上と人々の健康の問題改善・維持・向上に努めている。
- 他方は、キリスト教的立場から、より精神性（スピリチュアルティ）を強化しながら、弱者救済をめざした人々の地域福祉活動を推進している。
- 両者ともに人々が、身体的・精神的社会的に安寧な日常生活が送れるよう支援するという意味で人権思想（生存権）に基づいた全ての人の幸福実現に向けた地域福祉活動である。
- 医療・福祉・教育が協働すれば自助・相互扶助・公助の推進につながり、地域福祉への貢献ができる。

【スライド27】

看護教育歴史概要から私たちが学ぶ精神性は、真実の目を持ち、正しい現状認識から、良心に基いた正しい解決策を導き、これを正しく実行するべきことである。

そして、変革と成長

これが看護界と看護学に求められる将来ビジョンではなからうか！

鷹の象徴は変革と成長

【スライド28】



【スライド29】



【スライド30】

#### 【参考文献】

- 1) カール・ヒルティ著,草間平作他訳;幸福論(第一部),p16,岩波文庫,2014年.
- 2) Florence Nightingale(1851):The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev,(湯楨ます他訳:ナイチンゲール著作集第一巻,カイゼルスウェルト学園によせて, pp3-4, 現代社, 1983年.)
- 3) 蛭名賢造著:聖隷福祉事業団の源流—浜松バンドの人々—,新評論,1999年.
- 4) 真壁伍朗著:カイザースヴェルト訪問記(2), 総合看護,p66,1982年.
- 5) Lucy Ridgely Seymer, A General History of Nursing,, (小玉香津子訳:看護の歴史, 医学書院, 1978年.)
- 6) Catherine Winkworth, Life of Pastor Flidner(1867), Longmans, Green, and Co.2009.
- 7) 佐々木秀美著:歴史に見るわが国の看護教育—その光と影—, 青山社, 2005年.
- 8) Florence Nightingale(1851):The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the Practical Training of Deaconesses, under the Direction of the Rev,(湯楨ます他訳:ナイチンゲール著作集第一巻,カイゼルスウェルト学園によせて, pp3-4, 現代社, 1983年.)
- 9) 佐々木秀美著:ナイチンゲールの看護・福祉思想—「カイゼルスウェルト学園によせて」を手掛かりに, 看護学統合研究 Vol. 18 ,No. 2, pp14—34, 2017年.
- 10) 佐々木秀美著:ドイツにおけるディアコニッセ養成がナイチンゲールに与えた影響について, 看護学統合研究 Vol. 1, No. 1, pp10-21, 2017.